日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805　東京都新宿区矢来町 65
電話 03（5228）3171 FAX 03（5228）3175
発行者　総主事 司祭 矢萩新一

「光は闇を照らし」

管区事務所総主事　司祭　エッサイ　矢萩新一

「暗闇行くときには　主イエスが示された　輝く星をもとめ
光に顔むけよう」（日本聖公会聖歌集 476 番より）

今年も様々な出来事がありました。2 月の辺野古への米軍基地移転を問う沖縄県民投票では 70％反対という結果でしたが埋め立て工事が続けられています。4 月のフランス・ノートルダム大聖堂での大火災、スリランカの教会での爆弾テロ事件。6 月に米国大統領が DPRK（北朝鮮）を初めて訪問し、7 月にはハンセン病元患者家族への国の責任を認めた熊本地裁判決により首相が国として謝罪しました。8 月には韓国のホワイト国除外を決定し、日韓関係悪化の報道が過熱し、香港では民主主義を守る抗議活動が始まりました。ラグビーワールドカップの熱気が高まった 9 月には、台風 15 号が大きな被害をもたらしました。10 月になると消費税が 10％となり、台風 19 号で再び千葉をはじめ、長野や宮城、関東でも大きな被害が出ました。沖縄の首里城の大火災もありました。11 月には大嘗祭があり、ローマ教皇が 38 年ぶりに来日され、12 月にはペシャワール会の中村哲さんが銃撃に遭い逝去されました。各地で中規模の地震も多発しました。

聖公会の中では、独立運動 100 年を記念して 2.8 東京と 3.1 ソウルで合同礼拝を行ない、日韓関係改善を願ってソウルと東京で超教派の合同祈祷会が行なわれました。5 月にはいのちの課題として「原発のない世界を求める国際協議会」を開催し、省エネや自然エネルギーへの転換を呼びかけました。また、今年は日本聖公会の基を据えたウイリアムズ主教様たちが 1859 年に来日されてから 160 年を数え、宣教体制の見直しと丁寧な牧会の必要性がますます重要になる転換期を迎えています。みなさまにとっては、どんな 1 年だったでしょうか。

環境破壊による異常気象や、大きな地震に備えた対策の意識も強めていきたいと思います。私にとっては、武力によって平和は保てないこと、神さまが創造された自然の秩序を保全することの

□会議・プログラム等予定

（2019 年 12 月 25 日以降）

2020 年 1 月

8 日（水）法憲法規委員会〔管区事務所〕
9 日（木）教礼組・教理部会〔管区事務所〕
9 日（木）教礼組・組織部会〔管区事務所〕
20 日（月）主事会議〔管区事務所〕
20 日（月）ウイリアムス主教記念基金・基金委員会〔立教〕
22 日（水）主教会タスクフォース会議〔管区事務所〕
23 日（木）人権問題担当者会〔管区事務所〕
27 日（月）正義と平和・原発問題プロジェクト〔管区事務所〕

2 月

3 日（月）～ 4 日（火）各教区正義と平和担当者会〔京都〕
4 日（火）正義と平和委員会〔京都〕
10 日（月）～ 11（火）各教区青年担当者の集い〔名古屋〕
11 日（火）青年委員会〔名古屋〕
12 日（水）～ 14（金）定期主教会〔名古屋〕
12 日（水）～ 14（金）管区共通聖職試験〔各教区〕
17 日（月）常議員会〔管区事務所〕
18 日（火）年金委員会〔管区事務所〕
19 日（水）法憲法規委員会〔管区事務所〕
23 日（日）～ 24（月）ハラスメント防止・対策担当者会〔バルナバホール〕

<関係諸団体会議・他>

1 月 13 日（月）～ 18 日（土）首座主教会議〔ヨルダン〕
17 日（金）立教学院諸聖徒礼拝堂 100 周年記念礼拝〔立教〕

（次頁へ続く）

☆ 12 月 25 日（水）は、降誕日礼拝のため、管区事務所の業務を休業いたします。よろしくお願いいたします。

❁ **管区事務所年末年始休業**　12 月 30 日（月）～ 1 月 6 日（月）、業務を休業いたします。よろしくお願いいたします。

大切さ、歴史に学びつつ和解の務めを果たし、すべての人の人権が等しく守られることの大切さを感じた1年でした。

たとえどんな状況にあっても、この世を照らす光として私たちの間にお生まれになるイエスさまを覚え続けるクリスマスは、私たちの喜びであり、圧倒的なお恵みであることを改めて心に留め、感謝してご降誕をお祝いしたいと思います。

クリスマスおめでとうございます。2020 年もみなさまにとって、恵みあふれる1年でありますようにお祈りいたします。

（前頁より）

28 日（火）WCRP 新春学習会〔立正佼成会普門館〕
30 日（木）～31（金）外キ協全国協議会・全国集会〔名古屋〕
2 月 5 日（水）ACT ジャパンフォーラム運営委員会〔早稲田〕
20 日（木）NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕
22 日（土）米国聖公会台湾教区主教按手式〔台湾〕

□常議員会

第 64（定期）総会期第 8 回　2019 年 12 月 10 日（火）

① 海外出張に関して、以下の通り承認した。
・12/3 ～ 5　韓国 / ソウル　日韓協働合同会議　総主事 司祭 矢萩新一
・2020/1/13 ～ 18　ヨルダン・アンマン　首座主教会議　首座主教 主教 植松誠
・2020/2/21 ～ 23　台湾　米国聖公会台湾教区主教按手式　首座主教 主教 植松誠

② 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクトに関して、2020 年は申請がなく、1,000 万円を大斎克己資金へ積み増すことを承認し、また計画の進捗状況や結果について、毎年主事会議と常議員会に報告することを手引きに加えることを確認した。

③ 2019 年度収支予想および 2020 年度収支予想に関して、補正予算の必要はないと判断した。

④ 2020 年度管区事務所職員給与（定期昇給）に関して、承認した。

⑤ 2020 年 6 月の総会議案に関して、確認し協議した。

⑥「宗教法人日本聖公会京都教区規則」の一部変更（役員の欠格事項）に関して、承認し次期総会で追認を求めることとした。

⑦ フランシスコ教皇来日に関して、30 万円を献金することとした。

⑧ 宣教主査より、ハンセン病家族訴訟に関連する問題提起があったとの報告に関して、協議した。

次回以降の会議：2020 年 2 月 17 日（月）、4 月 20 日（月）

□管区

・第 91（定期）教区会で教区主教に選出された西原廉太司祭はこれを受諾し、主教被選者となった。

†逝去者　霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 アタナシオ笹森伸兒（東北・退職）2019 年 12 月 1 日（日）（85 歳）

《人事》

京都

<信徒奉事者認可>　2019 年 12 月 1 日付
（富山聖マリア教会）　ピリポ廣瀬康夫　（任期 1 年）

<分餐奉仕許可>　2019 年 12 月 1 日付
（奈良基督教会）　ダビデ松本 誠、サムエル藤井和人

神戸

司祭　シモン原田佳城	2020 年 2 月 29 日付	明石聖マリアマグダレン教会牧師の任を解く
	2020 年 2 月 29 日付	洲本真光教会管理牧師の任を解く
	2020 年 3 月 1 日付	大阪教区出向を命ず
		(期間：2020 年 3 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日)
司祭　パウロ瀬山公一	2020 年 2 月 29 日付	神戸聖ミカエル教会牧師の任を解く
	2020 年 3 月 1 日付	浜田基督教会牧師に任命する
	2020 年 3 月 1 日付	松江基督教会管理牧師に任命する
	2020 年 3 月 1 日付	広瀬基督教会管理牧師に任命する
司祭　ペテロパウロ柳本博人	2020 年 2 月 29 日付	松山聖アンデレ教会牧師の任を解く
	2020 年 2 月 29 日付	大洲聖公会管理牧師の任を解く
	2020 年 3 月 1 日付	神戸聖ミカエル教会牧師に任命する
司祭　ダビデ林　和広	2020 年 3 月 1 日付	明石聖マリアマグダレン教会牧師に任命する
	2020 年 3 月 1 日付	洲本真光教会管理牧師に任命する
	2020 年 3 月 31 日付	高知聖パウロ教会牧師の任を解く
司祭　セバスチャン浪花朋久	2020 年 2 月 29 日付	浜田基督教会牧師の任を解く
	2020 年 2 月 29 日付	松江基督教会管理牧師の任を解く
	2020 年 2 月 29 日付	広瀬基督教会管理牧師の任を解く
	2020 年 3 月 1 日付	松山聖アンデレ教会牧師に任命する
	2020 年 3 月 1 日付	大洲聖公会管理牧師に任命する
司祭　ペテロ中原康貴	2020 年 3 月 31 日付	大聖堂付きを解く
	2020 年 4 月 1 日付	高知聖パウロ教会牧師に任命する

2019 年教区会選出常置委員

北海道	聖職	広谷和文（長）	大町信也	下澤　昌
	信徒	沖田京子	尾関敏明	大友　宣
東北	聖職	長谷川清純	八木正言	涌井康福
	信徒	畠山秀文	赤坂有司（長）	坂水かよ
北関東	聖職	矢萩栄司（長）	木村直樹	小野寺　達
	信徒	谷川　誠	廣瀬　清	養田　博
東京	聖職	中川英樹（長）	笹森田鶴	卓　志雄
	信徒	植松　功	後藤　務	黒澤圭子
横浜	聖職	片山　謙	田澤利之（長）	宇津山武志
	信徒	中林三平	村井恵子	高橋　保
中部	聖職	土井宏純（長）	下原太介	中尾志朗
	信徒	上野光一郎	牛島達夫	河西恵子
京都	聖職	大岡左代子（長）	古本靖久	出口　崇
	信徒	佐々木靖子	高垣成美	出口　弘
大阪	聖職	義平雅夫（長）	千松清美	柳　時京
	信徒	鈴木光子	太田幸彦	井上惠美子
神戸	聖職	芳我秀一（長）	瀬山会治	小南　晃
	信徒	覚前康子	大東康人	松田嘉彦
九州	聖職	牛島幹夫（長）	小林史明	李　相寅
	信徒	東　美香子	秋山大路	柴田康子
沖縄	聖職	戸塚鉄也（長）	金　汀洙	西平妙子
	信徒	大倉信彦	洲鎌君代	立田晴記

「大斎節中の礼拝と音楽」をテーマに

―礼拝及び礼拝音楽担当者会を開催―

管区礼拝委員、祈祷書改正委員／立教大学チャプレン　司祭　宮﨑　光

11月29～30日、横浜聖アンデレ教会を会場に、礼拝委員会主催「礼拝及び礼拝音楽担当者会」（以下、「担当者会」）が「大斎節中の礼拝と音楽」をテーマに開催されました。この集まりは、1995年に『改訂古今聖歌集増補版’95』が出版される時を第1回として数え、以来、日本聖公会全体で聖歌集改訂に取り組むという共通意識をもって、『聖歌集』出版とその普及に貢献してきました。とりわけ、各教区の礼拝音楽の状況を報告し、情報を共有する時間は、どの教区にとっても刺激的であり、回を重ねるごとに挑戦や発見、そして協働のきっかけが提供されています。今は次なる祈祷書改正に向けて、広く知恵と真心を結集するべき時期であると言えます。今回は、そのことを改めて意識するためのプログラムも含めた担当者会となりました。

主題講話「大斎節中の礼拝と音楽」

「降臨節」に入る時期に、なぜ「大斎節」を取り上げるのかを含めて、私が最初の発題をしました。1）今のうちから考えておけば、次の大斎節に間に合うこと。2）「聖なる三日間」には、キリスト教礼拝の最も古い、基本的な形、式文や聖歌が残っていて、しかも東西教会共通の要素（信仰的財産）でもあること。3）その上で、古代から保持されてきたものを、どのように今のわたしたちの教会生活で、実行可能なものとして生かせるか、という骨子で、考える材料をいくつか提供しました。

続いて、ゲスト講師の坂本日菜氏（作曲家、横浜聖アンデレ教会オルガニスト）から、礼拝で歌うことの姿勢、心得の実践的指導を受け、参加者はパートに分かれて、坂本氏作曲の「神の小羊」（『聖歌集』S38-3）を練習しました。この曲譜は、グレゴリオ聖歌の旋法（音階）で作られたものであり、単旋律の装いを持ちながら和声が加味された、まさに古くからの伝統技法を今に生かした曲です。また、今に至る礼拝音楽の起点でもあるグレゴリオ聖歌から、特に復活前主日のシュロの枝をもって行進する際の歌「Gloria, laus et honor」（137番の詞）と、聖金曜日に歌う「十字架賛歌Crux fidelis」（142番の詞）を少しだけ歌い馴染んだ上で、その2曲をモチーフにした坂本氏作曲のオルガン曲「メディタシオンとトッカータ」を聴きました。演奏は、今回のもう一人のゲスト講師、横浜聖アンデレ教会オルガニストで、横浜みなとみらいホールのオルガニストでもある三浦はつみ氏。

公開プログラム「聖歌と音楽による巡礼・キリストの生涯」

夜は、三浦氏のプロデュースにより、聖歌と音楽でキリストの生涯を辿るメディテーションを行ないました。聖公会が19世紀以降、グレゴリオ聖歌をはじめとするラテン語古典聖歌を、礼拝の聖歌として積極的に採り入れてきた歴史を踏まえて、降誕、荒野の誘惑、受難と死、復活と昇天、そして再臨へと、音楽による時空を超えた巡礼をしました。三浦氏の若いお弟子さん方（千葉麻莉子さん、殿岡真衣さん）の歌による協力も得て、グレゴリオ聖歌Puer natus est nobis（ひとりの幼子が生まれ）に始まり、バッハ、ヴォーンウィリアムズ、ブリテン、ギ・ボヴェ、メシアンといった作曲家たちの作品に比肩する坂本日菜氏の作品が、今も生まれ続けてゆくという恵みを感じた一幕でもありました。

ワークショップ「賛歌等の訳詞を考える」

大斎節中の礼拝において用いられる唱和や賛歌について、参加者がグループに分かれて、その訳詞（ことば）を考えるワークショップは、祈祷書改正に向かう意識を喚起するものとなりました。例えば「聖なる神よ」（S71）という短い唱和の訳文は、「聖なる神／聖なる神、力ある神／聖なる神、常に命ある神／憐みをあたえてください」とか、「聖なる神／力ある聖なる神／常に生きておられる聖なる神よ／憐れみをわたしたちに」といった改正案も出ました。聖金曜日の唱和「見よ、主の十字架」（S73）は、「これが十字架となった木／ここに世の救い主がかけられた／ここに集まり、ともにあがめよう」と、十字架賛歌として、主の体を支えた幹そのものへの賛美を意識した試訳も編みだされました。祈祷書改正は、こうした既存の礼拝式文に疑問を持つこと、そして時代や言葉の変化と共に、改正案を考え続けてゆく作業が、とても有益であると実感できたと思います。

聖土曜日の礼拝における唱和、「キリストは、ほんとうによみがえられた」も、「ハレルヤ、キリストは今、よみがえる／ハレルヤ、確かに今、よみがえる」という案がありました。「確かに」という響きが違和感なく、また尊敬語に縛られることなく、現在形「よみがえる」も、なかなか動的ではないでしょうか。

アンケート「聖週～聖なる三日間の礼拝について」集計結果速報

担当者会に先立って、各教区へアンケートをお願いしたところ、全国から194件の回答をいただきました。聖週の礼拝実施状況を把握する貴重なデータで、集計結果速報が、市原信太郎委員からありました。おもなポイントを紹介します。

1）復活前主日の行列とシュロの使用は、回答の半数以上に上ること。
2）聖木曜日は、聖金曜日に比べると礼拝を行なっているところが若干少ない。
3）「洗足」も回答の４分の１ぐらいの教会が実施している。これは「大斎節中の礼拝」の式文が出てからのここ 20 年間の実践が「洗足」の普及につながったとも考えられる。
4）聖金曜日は、聖なる三日間の中では最も礼拝が実践されている。

最後に　ー礼拝で歌った聖歌からー

開会時に、横浜聖アンデレ教会の青木瑞恵氏作詞、264「目覚めさせてください」を歌いました。

夕の礼拝（司式：小林祐二司祭では、故鈴木隆太氏作曲、38「キリスト力ある主よ」を、閉会の聖餐式（司式・説教：吉田雅人主教）では、坂本氏の聖餐式用曲譜（S25-4、S33-1、S34-2、他）を。そして結びの聖歌476「暗闇行くときには」は、坂本氏編曲による、ヴァイオリン（永井みどり氏）、リコーダー（山本洋子氏）とオルガン（三浦氏）のアンサンブルで、参加者はそれぞれの場へと送り出されました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

CCA エキュメニカル女性総会（台湾）に出席して

管区女性に関する課題の担当者　クララ吉谷かおる

11月22日（金）～26日（火）、CCA（アジアキリスト教協議会）のAEWA（Asian Ecumenical Women's Assembly／アジアエキュメニカル女性総会）が開催された。会場は台北の南西70kmにある新竹（Hsinchu）市の長老派の神学校、台灣基督長老教會聖經學院キャンパスであった。アジア各地から超教派の女性が250名規模で集まるということで、期待と少しの不安を抱きつつ、雪のちらつく札幌から11月でも暖かい台湾の桃園空港に降り立った。

日本からの参加者は、新田紗世さん（NCC青年委員会委員長、日本聖公会青年委員会委員）、藤原佐和子さん（CCA常議員、NCC信仰と職制委員会協力幹事／日本福音ルーテル教会）、鄭詩温さん（在日大韓基督教会）と吉谷の4名であった。

アジア各国のアングリカン・コミュニオンからは相当数の女性たちが参加していた。写真はオーストラリア、メルボルン教区のブラックウェル主教、韓国ソウル教区の金基理司祭、東京教区信徒の新田さんとともに写したものである。金司祭はこの総会のモデレーター、ブラックウェル主教は閉会聖餐式の司式をつとめられた。

AEWAをつらぬくテーマは‘Arise, be Aware to Reconcile, Renew, and Restore the Creation’（立ち上がり、目覚めよう。和解、刷新、被造世界の修復のために）というもので、22日の開会礼拝から26日の閉会聖餐式まで5日間の会期中は、テーマに沿ったプレゼンテーション、パネルディスカッション、ワークショップ、聖書研究といったプログラムが組まれていた。

2日目には日本ルーテル神学校などで講師をされている藤原佐和子博士が「和解のために目覚める―私たちの姉妹の足跡を辿って―」というタイトルでプレゼンテーションを担当された。エキュメニカル運動の中での女性たちの働きを振り返り、日本のフェミニスト神学運動を紹介し、ジェンダー公正を推し進めて私たちみずからが和解のための「預言者的な証人」になるようにと促すこの講演は、共感を呼び起こし会場を沸かせた。

ワークショップでは「エコ・フェミニズムと気候変動」、「貧困と食の安全」にも参加したが、韓国のユースが中心となって企画した今日の父権制を問う内容のワークショップが最も意義深く感じられた。世界でベストセラーになっている『82年生まれ、キム・ジヨン』（チョ・ナムジュ著）が紹介され、各々がジェンダー不公正を実感する場面について分かち合った。またここでは香港の参加者から抗議デモに加えられているすさまじい暴力の実態について聞くことができ、この問題を共有したいというユースの人たちの熱意を感じた。

24日は安息日で、グループに分かれてローカル教会を訪問したのち、カルチュラル・イブニング（参加者がそれぞれの国の民族衣装を着て歌や踊りを披露する）が催された。

インドネシア、フィリピン、韓国などは大代表団での参加であったが、ことに青年層が厚く活躍が目立った。私自身まだ経験を積んでいる途中という意識でいるが、現実にはもはや「シニア」である。今回、新田さん、藤原さん、鄭さんという青年に属する人たちが参加したのは幸いであったが、青年が早い段階から国際的な集まりの場に出ていけるように積極的に支援する必要があると感じる。

これからの教会の働きは、SDGsや「宣教の5指標」に示されるように、グローバルな協力のもとに平和と地球環境を守ることが中心となるだろう。課題を共有しやすいアジア女性とのネットワークづくりと、アジアのフェミニスト神学の学びを青年とともに進めていきたい。

大規模な国際会議、しかも初めての開催とあって、スタッフやホスト教会の方々には準備段階から並々ならぬご苦労があったと思うが、ホスピタリティ溢れる運営で、毎日の礼拝部門も素晴らしく、教派の違いを超えた一致を体験することができた。関係のみなさまに心より感謝申し上げる。この集まりは閉じられてからが本当の始まりであり、「和解、刷新、修復」の未来に役立てるようにそれぞれが派遣されているということを銘記したい。

世界の聖公会の動向

☆ロイヤルゲストがミッション・トゥ・シーフェアラーズの記念礼拝に参加
ほか

管区渉外主事
司祭　ポール・トルハースト

○世界最古のエキュメニカル運動の創立175周年を祝う

ヨーク大主教のジョン・センタム博士は、今年175周年を迎える世界最古のエキュメニカルな活動の一つに関わる祝賀会に参加した。福音主義の青年によるキリスト教奉仕団体として始まった世界的なYMCA青年運動は、ロンドンの聖マルタン広場でささげられた感謝礼拝でその起源を祝った。

YMCAの会長である大主教は、「YMCAの175周年の祝祭に参加することができたことは大きな喜びです。若者を助け、支援するために彼らがこれまで成し遂げ、そして現在も続けている働きは大変素晴らしいものです。私はその働きが次の世紀まで続くことを祈ります」と語りかけた。

YMCAイングランド＆ウェールズのデニーズ・ハットン代表は、「仕事仲間が福祉に関心を寄せ、祈りと聖書の研究グループを結成したことから始まり、現在では世界中で6,000万人に達するYMCAに発展しました。」と述べた。

YMCAの起源は1844年に遡り、22歳のジョージ・ウィリアムズがロンドンのセント・ポール大聖堂近くの店で仲間と出会い、それが後のYMCA(the Young Men's Christian Association)設立につながった。

○ロイヤルゲストがミッション・トゥ・シーフェアラーズの記念礼拝に参加

先日、イギリスのアン王女が日本のミッション・トゥ・シーフェアラーズの祝賀行事に参加された。10月13日に横浜のクライスト・チャーチで行なわれた特別礼拝は、日本で140年にわたって船員に対するケアを続けてきたことを記念するものである。

MtSの総裁であるアン王女は夫を伴い、日本の海運業界を代表する外交官や企業家を含む他のゲストと共に、礼拝と祝賀昼食に出席した。

日本ミッション・トゥ・シーフェアラーズのクリス・イブ代表は次のように述べた。「MtSには1880年からここ日本で船員を支援してきたという誇り高い伝統があります。この年、急成長中の横浜港に小さなセンターが開設されました。当初はアルコールからの避難所でしたが、やがてすべての船員を迎え入れるという目的が急速に広がりました。創設以来、このミッションは神戸と苫小牧にも拡大し、現在では3カ所すべてで国籍、人種、信条を問わず、さまざまなサービスを提供しています。」

ミッション・トゥ・シーフェアラーズ事務局長のアンドリュー・ライト師は、直前の台風ハギビス(19号)による被害は、日本においてすべての船員が直面している危険を思い起こさせたと述べた。そして「私たちは、日本MtSが世界200以上の港に広がる私たちのグローバルな家族の一員であることを大変誇りに思っています。」と語った。

○教会が平和構築のためにブルンジの若者を指導

ブルンジが来年の選挙を控えてさらなる不安を抱える中、聖公会は若者が平和と和解を促進するための準備を支援してきた。

15歳未満の若者はブルンジの総人口のほぼ半分を占めるが、高い失業率のため、不安定な政治情勢の中であらゆる種類のごまかしに対し脆弱であると見られている。

ブルンジ聖公会は、訓練を通じて若者のエンパワーメントを支援し、相違や問題を平和的に克服する方法を提唱することによって、彼らが直面する社会問題や課題のいくつかに対処することを目指している。この教会トレーニングは、若者が自分たちのコミュニティで平和を創造することへの支援を目的としている。

○ウェールズ聖公会の新主教が、男女均衡を主教会にもたらす

英国教会の司祭に按手された最初の女性の一人であるチェリー・ヴァン師が、新たにウェールズ聖公会のモンマス教区主教に選出された。彼女の按手により、ウェールズ聖公会は聖公会管区として初めて、男性と女性の主教が同数になる。

チェリー・ヴァン師はケンブリッジのウェストコット・ハウスで聖職の教育を受け、1989年に執事となり、1994年に英国教会で女性として初めて司祭に按手され、その後はマンチェスター教区で宣教をおこなってきた。

彼女は才能あるピアニストでもあり、ロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックの会員であると同時に、ロイヤル・スクール・オブ・ミュージックの修了生でもある。さらにボルトン室内管弦楽団の指揮者でもある。

○カリフォルニア教会が山火事からの避難を支援

米国カリフォルニア州の教会や聖職者たちは、同州を襲った山火事により家を追われた何百人もの人々の避難や避難所の調整を支援している。

このような山火事の発生は、長年の干ばつの影響により、当該地域で一層慢性化してきている。

北カリフォルニア教区は実際的な対応として、近隣教区と共同し、避難区域外に居住していて避難者の収容に協力してもらえる聖公会関係者を募っている。教区の指導者たちは、自分たちの住居にスペースを提供して避難者収容の手助けをしようとしている多くの聖公会関係者を見るのは心強いと述べた。

避難を余儀なくされた聖職者の一人であるスティーブン・シェーバー師は、より南に住む教区信徒のもとに身を寄せ、教会のフェイスブックページに開設されたバーチャルな朝の祈りへの参加を信徒に呼びかけた。彼は、「これは私にとってはとても重要であり、私たちがするべきことです。私たちはキリストの体であり、直接集うことが叶わない時であってもこうしてバーチャルな方法で集まることができれば、助けになるでしょう。」と話した。

○ハリケーン・ドリアンの被害により教会は日々数百人の食料支援を実施

バハマ教会は、先日のハリケーン・ドリアンで家が流され、何も持たずに取り残された何百人もの人々に食料を提供している。

ハリケーンが襲った直後、バハマとタークス・カイコス島の主教、ライシュ・ボイド師は、聖職者と信徒たちに、彼らを必要としている人々に手を差し伸べるように奨励した。

教役者に宛てた文書の中で、彼は「もし必要なら、親戚や友人、あるいはその他の人々を被災地からあなたの家に連れて行くことを計画してください。私たちはこの危機的な時期に彼らを助けなければいけません。」と書いた。

アバコとグランド・バハマの各地から来た100人以上の教会関係者は、家が完全に破壊され、全てを失った。行方不明の家族がいる他、多くの教会が洪水に見舞われ、嵐による建物への被害を受けた。

この惨状の中で、何百人もの人々が教会の敷地内に避難したり、教会の炊き出しプログラムから食料を受け取ったりしている。

39世帯が家を失ったグランド・バハマの聖ユダ教会では、コミュニティ全体から毎日500人に食料を提供するプログラムを実施しており、別の教会でもハリケーン以来、教会ホールに救援スタッフを配置し、周辺地域の人々に食料品や調理済み食品を届けている。他の諸教会でも同様のプログラムが提供されている。

アングリカン・アライアンスの災害対応および復興マネージャーのジャニス・プロード博士は、バハマの聖公会は地域社会にとって重要なパーツであり、復興活動において大切な役割を果たしていると次のように述べた。

「最初の日曜日から、聖公会では教会が損傷していても、人々が通常通りに集うことができるように、礼拝が守られました。」

子ども達へ　聖書　―学校では教えてくれない大切な事―

第 3 話「放射能の話」

北関東教区志木聖母教会信徒・元立教小学校校長
田中　司

今回も聖書の個所は前回と同じ創世記1章31節です。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」

神様のお造りになった世界は、放射能に満ちあふれています。我々の住んでいる銀河系は、太陽のような星が2,000億個も集まって出来ていますが、それらは皆「核融合反応」と言う反応を行なって光っています。簡単に言えば水素爆弾です。ですから宇宙は放射能に満ちあふれているのです。その中で太陽の第3惑星、地球だけには放射能がありません。それは地球には、空気があるからです。空気は、太陽から出ている色々なエネルギーの内、熱（赤外線）と光とわずかの紫外線だけを通して地上に送り、後は吸収してしまうのです。吸収されるエネルギーは、ガンマー線、エックス線、大部分の紫外線等、生物にとって有害な、放射能と呼ばれるエネルギーです。このように地球では、空気が太陽や宇宙からの放射能を吸収して、地面までとどかないようにして生物を守っているのです。そして空気は、生物が生きて行くのに必要な光とちょっとの紫外線と熱（赤外線）は、何の邪魔もしないで通過させてくれるのです。

それ以外に、地球自身も放射能を出していました。今から約50億年前、太陽が誕生した頃地球も誕生したと考えられますが、その頃の地球は、まだ不安定な物質で出来ていて、沢山の放射能を出していました。放射能を出す不安定な物質は「半減期」と言って何十万年か掛かって、出す放射能を半分に減らします。それを何度も繰り返して、放射能を出す不安定な物質は、安定した放射能を出さない物質に変わって行くのです。それには何十億年も掛かります。

ですから、今回の放射能に関して言えば、「極めて良かった」と言うためには、何十億年も掛かっているのです。この放射能の無い、宇宙の中でも珍しい、生物にとって極めて良い、この環境は人間が造られてから100万年も続きました。人間が何もしなかったからです。

ところが、ここで大変な事が起こったのです。動物の中で一番頭の良い人間は、人間を作ってくださった神様と、神様が人間のために作ってくださった世界について考え始めたのです。今から2,500年位前の事です。

いくら人間が考えても分からない神様に関しては、神様の方から人間に語りかけてくださいました。人間は言葉を使って字を書けますから、それを書物にしました。それが「聖書」です。

それから、人間は、神様が作ってくださった世界に「自然」と言う名前を付けました。この極めて良かった世界「自然」は、第二の聖書として、人間が、神様の心を知るために、正確に観察し始めました。

そこで、まず人間は、神様のお造りになった地球が、どの様な物質で出来ているか調べ始めました。その結果まず分かった事は、まだ地球が放射能を出している頃の不安定な物質が、わずかに残っていると言う事です。これを発見したのはマリー・キュリー(キュリー夫人)（1867 ～ 1934）です。1898年の事でした。そして、その不安定な物質の持っている性質に、「放射能」と言う名前を付けたのもマリー・キュリーです。マリー・キュリーは、この研究でノーベル賞を貰いましたが、神様のお造りになった自然の素晴らしさを追求する人が、研究をしやすくするために、特許を取りませんでした。マリー・キュリーの発見をきっかけに研究は、どんどん進み、極めて良く出来ている自然の仕組みが、かなり分かって来ました。

物は「原子」で出来ている。原子の中心には「原子核」があって、その周りを「電子」が回っている。原子核は丈夫で絶対に壊れない。この絶対に壊れない原子核を、もし壊したとすると、原子核には、「核力」と言う力が働いていて、その力は考えられない程大きい。原子核は丈夫で絶対に壊れないが、まだ放射能を出している不安定な物質では壊れやすい。等々、色々な事が分かってきました。

1938年、ドイツの物理学者オットー・ハーン（1879～1968）は、不安定な物質を集めて、核分裂反応を起こさせる実験に成功しました。この核分裂反応、核力から得られるエネルギーは、火薬を爆発させる時の1,000万倍もある事も分かりました。

不幸な事に、ハーンがこの実験に成功した頃、ドイツは、世界中を相手に、第2次世界大戦という大戦争をしていました。先頭に立っていたのはナチスのヒットラー（1889～1945）です。ヒットラーは、今までに地球上に現れた人間の中で、一番悪い人間と言えるでしょう。彼の考えは、「ドイツ民族は優秀だから世界を支配しなければならない。そのためにユダヤ人は邪魔だから、絶滅させよう。」と言って、ユダヤ人を何十万人と集めて、アウシュビッツやビルケナウの収容所に入れて、皆殺しにしていたのです。そのドイツに味方をしたのは、イタリアと日本でした。それに対抗していたのはアメリカとヨーロッパの連合軍です。

アメリカの原子物理学者たちは、焦りました。ドイツで、核分裂反応の実験に成功しているからです。火薬の1,000万倍のエネルギーを持った「原子爆弾」をヒットラーが持ったら世界は滅亡する。ヒットラーが、原子爆弾を作る前にアメリカで原子爆弾を作らなければいけない。

1939年、アメリカの原子物理学者、アルベルト・アインシュタイン（1879～1955）とレオ・シラード（1898～1964）は、ルーズベルト大統領（在任1933～1945）に手紙を書きました。

「アメリカ中の原子物理学者を集めて、ヒットラーより先に原子爆弾を作らなければいけない。もしヒットラーが先に原子爆弾を持ったら世界は、破滅する。」

その手紙が功を奏してアメリカ中の原子物理学者が集められました。所謂「マンハッタン計画」です。

アメリカの原子物理学者達は、ヒットラーが、原子爆弾を作ったら、大変な事になる。ヒットラーより先に原子爆弾を作ろうと考えて、毎日苦労をして原子爆弾作りをしました。地球に僅かに残っている不安定な物質、それを核燃料と言うのですが、それを集めるのが一番大変でした。

もうちょっとで原子爆弾が出来上がると言う時です。ヒットラーはもう死んだ、ドイツは戦争に負けたからもう原子爆弾は作れないと言う事が分かりました。アメリカも、もう原子爆弾を作る必要はありません。

そこでシラードは、もう原子爆弾を作る必要はない。原子爆弾作りを中止しようと提案しました。でも、軍部は、そんな事を聞き入れません。世界最強の武器が手に入るのです。シラードの考えを無視して原子爆弾を完成させました。

こうして出来た原子爆弾は、広島（1945年8月6日）と長崎（1945年8月9日）に落とされました。それで、第2次世界大戦は終了しましたが、原子爆弾の開発はとどまる事を知らずに進められました。大国は競って原子爆弾を作り、その爆発実験を南太平洋の島でやりました。すぐに、原子爆弾より強力な「水素爆弾」が作られました。

この頃は、まだTVが出来ておらず、映像のニュースは、映画館で映画の前にやる、主にアメリカ製のフィルムでした。そのニュースの中に必ずアメリカの原水爆実験の記録が入っていました。真っ赤に燃える火の玉や、真っ黒なキノコ雲が、スクリーン一杯に映し出されました。それは、あたかも、知恵の木の実を食べた人間が、神と同じになり、ついに太陽を地球上で輝かせたと、誇っているようでした。それは、せっかく放射能の無い地球に、放射能をぶちまける愚かな事だったのです。今では考えられない、ニュースが上映されていました。その頃の実験の後遺症は、今でも続いています。

1957年、カナダのパグオッシュで、アルベルト・アインシュタイン、バートランド・ラッセル（1872

～1970)、湯川秀樹（1907～1981）等、世界的な物理学者や哲学者達が集まって会議が開かれました。会議では「核兵器絶対悪」と言う事が宣言されました。「絶対悪」という言葉は、聖書の「それらはすべて極めて良かった」と言う神様の言葉と一緒で、人間の判断を超えている言葉です。

原水爆の実験で地球がめちゃくちゃになる直前にアメリカのアイゼンハワー大統領（在任1953～1961）が、原子力平和利用と言う言葉を発明しました。火薬の1,000万倍の核分裂のエネルギーの熱だけを利用して、水を水蒸気にして、それでタービンを回して発電をする「原子力発電」です。

原水爆の実験の後は、世界中で原子力発電が開始されました。それは、今でも続いています。原子力発電は、確かに二酸化炭素は出しません。しかし、湯をわかす為の核分裂反応は、原子炉の中で行なうのですが、核分裂反応の時に出る、不安定な何万年も放射能を出し続ける物質、これを「核廃棄物」と言うのですが、この核廃棄物を、原子炉の中に大量に出し続けるのです。原子炉は、神様のお造りになった自然を調べる研究の為には必要ですけれど、核廃棄物は、ごく僅かしか出しません。それを発電の為に、熱を得る為にだけに原子炉を使う事は、大量の核廃棄物を出す為に、地球の環境には極めて悪い事なのです。

現在、大量の核廃棄物は、キャスクと言う放射能の漏れない容れ物に入れ、いずれどうにかしなければ、と考えるだけで、積み上げてあります。ですから核廃棄物は、放射能を漏れないようにするだけで、処理の仕方はまだ決まっていないのです。

そのお陰で、放射能に関しては、神様のお造りになった「極めて良かった」世界は、それとは程遠い悪い世界になってしまいました。これからの子ども達が一生掛けてやらなければならない仕事は、核廃棄物を溜めこんだ悪い世界から核廃棄物をかたづけて、創世記1章31節の極めて良い世界に復元する事です。

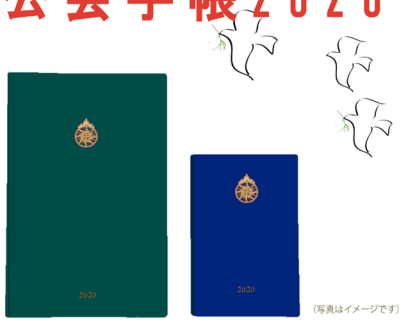
一例をあげましょう。核廃棄物をロケットに乗せて、地球の引力圏の外に打ち上げるのです。そうしたら後は太陽の引力に引っ張られて最小の燃料で太陽に打ち込めるでしょう。そのロケットも水素ガスを燃料にすれば二酸化炭素を出しません。そうすれば、放射能を何十万年も出し続ける不安定な物質は、地球から無くなるのですが、それには、その核廃棄物が、生み出した電力よりも高価な費用が掛かります。

今の子ども達の将来は、核廃棄物処理の為に沢山のお金を払わなければならないでしょう。人類が生き延びる為に、地球上の人間は、もっと協力をしなければなりません。軍備等という無駄な事をやっているゆとりは、ありません。

今まで大人達は、地球をいじめほうだい、いじめて来ました。今度は君達、子ども達の番です。君達子どもが、本気で考えれば、必ず今の大人には考えられなかった、地球をいじめないで人間が快適な生活をして行く良いアイディアが出て、地球を再び神様のお造りになった、「極めて良い世界」に造り変える事が出来るでしょう。

（志木聖母教会ニュースレター第62号より）

聖公会手帳2020



（写真はイメージです）

＜ 大型判、ポケット判のデザインを個性化しました!! ＞

日本聖公会管区事務所編集

2020年度教会歴日課表を完全収録

紙質を軽量化、持ち運びが便利になりました

全国の聖公会の教会・伝道所、関係諸施設情報も充実しています

大型判　2,200円（税込）/ ポケット判　1,200円（税込）

お求めは聖公書店（☎04-2900-2771）または、お近くの書店まで

日本聖公会管区事務所
2019年10月

Merry Christmas and a Happy New Year

□『管区事務所だより』と「聖公会手帳」に関するアンケートご協力を！

『管区事務所だより』と「聖公会手帳」に関するアンケートを実施いたしております。記入用紙は、2019 年 11 月の管区定期便に同封いたしました。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

管区事務所　広報主事

日本聖公会管区事務所ホームページ http://www.nskk.org/province/

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。